

ど、今の生活に満足していません。親のもとを離れて、一人生活してみたいというのは私の夢でもあるんです。だから、都市に出て自由に行動してみたいと思います。

中島 僕は神戸に残るか、帰ってきて山口市か下関に住みたいと思います。

新山 私はUターン就職を希望してはるんですけど、家から通えるところに就職できれば、それが一番だと思うけど、やはり、今はむつかしいと思うので、県内の地方都市に就職できたらいいと思っています。

それじゃ、油谷町はどうしたらいいの？

久村 それでは、最初に地方分権の話をしましたけれど、これから、油谷町に住んでいらっしゃるみなさんが、自分たちで考えて自分たちで作っていかなくちゃいけない時代になるですよ。みなさんが良いアイディアを持っているければ、他の市町村と差が出てしまう。

そういう意味で、これからどういうことをしていけばいいのか、そのあたりはいかがでしょうか。

今津 やっぱ、活気あるまちづくりが大切だと思うんですよ。そのためには、若者が油谷町に残ってあらゆる行事を盛り上げていくことがいいと思います。

中嶋 今日、町長さんから言われて、はじめて交通網の整備とか、いろんな油谷町のまちおこしがあるっていうのを知ったんですけど、もっと、そういうのをみんながわかるように、もっとみんなが興味をもつような策を考えていけばいいと思います。

瀬川 十年後に僕がみて魅力的なまちになっていけば、帰ってこようと思います。(会場笑)

小島 もっと自分たち一人ひとりが油谷町のことをよく理解しないと、油谷町の発展にはつながらないと思います。

中島 最初言ったようなことなんですけど、そんな住みたようなまちにするよりも、お正月とか盆に帰ってきて、ああ、やっぱりよかったな、と思うくらいのもちでいいと思います。(会場笑)



んが今日述べられたことを、今後生かしていかなければいけないと思っております。

現在、Y・Yビーチ、楊貴妃の里、妙見山展望公園、この三つを整備したわけですが、さらに、本州の最西北端の川尻岬、これに道路網を整備してルートができないとなかなか充実がむつかしい。これも今、県の方で二車線化を着々としていただいておりますので、ここ三～四年のうちには観光ルートは完成します。

そして、みなさんにお

知恵を出していただいて、観光客から地元にお金が落ちるような仕組みを考えていただきたいと思っています。

また、みなさんがおっしゃったように就職の場がないというところですが、優秀な企業は水がないと来ないわけです。二十一世紀初頭には、水と道路が完成するので、これも実現できると考えています。

そういうことで、町も一生懸命頑張っています。これから諸君も頑張ってください。

久村 みなさんの意見をうかがってきたわけですが、地方分権の時代に入っていくと

している現在、こういった若い人たちの考えている意見、これをどう行政が吸い取っていくか、どういうふうな発展させていくか、これからのまちづくりは、地方は特にやりかた次第ではたいへんおもしろいんじゃないかと思っています。

この油谷町が、これからますます発展して、町長さんが言われる十年後をたいへん期待して見届けてまいりたいと思います。今日は長時間どうもありがとうございました。

二十歳になったばかりの若者の意見、みなさんはどう感じられましたか。一度は都会へ出てみたい、そんな若者の熱い思いが伝わってきます。

油谷町には就業の場がない、都会の方が刺激があってもおもしろいし、自分の可能性も見出せる、あらかじめ予想できるような意見も、こうして実際に若者の口から聞くと、いっそう重く受け止められます。しかしこれから、人々の価値観も変わり、都会から地方へ移りたいという人や、都会を「卒業」して帰って来たいという人もいます。そういう若者を受け入れるための条件整備が一日も早く望まれます。